

政策番号	20	政策分野	歩くまち
------	----	------	------

基本方針	市民、事業者、行政が一体となって「歩いて楽しいまちづくり」を推進することにより、クルマを重視したまちとくらしを、京都にふさわしい「歩く」ことを中心としたまちとくらしに力強く転換していく。
------	---

担当局	都市計画局
-----	-------

共管局	建設局, 交通局
-----	----------

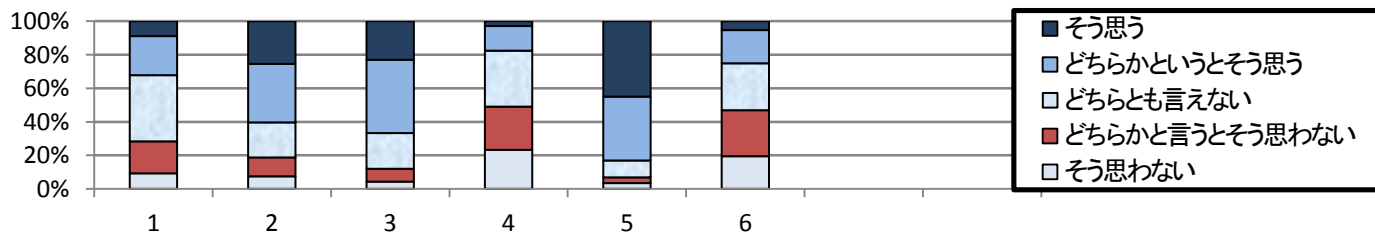
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	23 年度	24 年度	25年度評価				
					前回は	最新値	目標値	達成度	評価
1 公共交通機関について残念と評価した割合(%)	12.6	6.3	-	-	12.6	14.7	11.9	76.5%	c
2 放置自転車台数(台)	4,200	1,400	a	a	2,034	1,536	1,950	121.2%	a
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価				a	a	b			

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		23年度	24年度	25年度
1	京都では、過度な自動車利用を控え、歩くことを中心としたライフスタイル(くらし方, 生き方)が大切にされている。	c	c	c
2	京都での移動には、公共交通が便利である。	b	b	b
3	歩いてこそ魅力を満喫できるまちとなっている。	b	b	b
4	まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。	d	d	d
5	地下鉄, 市バスは, 市民生活に役立っている。	a	a	a
6	駐輪場の整備や自転車の利用マナーの向上により, 自転車と歩行者が共存できている。	d	d	d
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価		c	c	c



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

23年度		24年度		25年度	
順位	%	順位	%	順位	%
14	15.3%	16	13.9%	22	77.5%

3 総合評価

C	政策の目的がそこそこ達成されている		
	<p>【客観指標】・公共交通機関について観光客が残念と評価した割合は、前年度から増加しており、c評価となった。個別の意見としては、例えば、バスや地下鉄の乗り場の分かりにくさなどが挙げられており、観光客向けに、より利便性を向上させる取組が求められていると考えられる。</p> <p>・放置自転車台数については、駐輪場整備や撤去強化によるマナー・ルールの向上を図り、a評価となった。</p> <p>【市民の実感】・市民の実感については、全体として昨年度と同様の評価となった。</p> <p>・自動車の渋滞や自転車と歩行者の共存については、やや否定的な意見が多かったものの、地下鉄・市バス等の公共交通の利便性は高く評価されている。</p> <p>【総括】・放置自転車対策で取組の実績が現れ、地下鉄・市バスが便利で役に立つことも認識されているが、観光客の評価や、市民の実感においてc又はd評価も見られることからすると、「歩いて楽しいまち」として市内全域で十分に環境が整い、暮らしに根付いているという評価には至っていない。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。</p>	24年度	B
		23年度	B

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
		23	24	25	
2001	世界トップレベルの使いやすさをめざした公共交通の再編強化	B	B	B	207
2002	歩く魅力を最大限に味わえるような歩行者優先のまちづくり	B	B	B	209
2003	歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換(「スローライフ京都」 ^{プロジェクト} 大作戦)	B	C	B	211
2004	地下鉄の魅力向上とまちづくりへのさらなる活用	B	A	A	213
2005	歩行者と共存可能な自転車利用の促進	C	C	C	215

<今後の方向性>

・「歩くまち・京都」の実現に向け、①既存の公共交通の再編強化、②歩く魅力を最大限に味わえる歩行者優先のまちづくり、③歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換を推進する。

・既存公共交通の再編強化に向けては、地下鉄・市バスの更なる安全性と利便性の向上や、高齢者・障害のある方をはじめ、すべての人が安心・安全で円滑に移動できる交通バリアフリー化など、ネットワークを充実させ、世界トップレベルの使いやすさを目指した取組を推進する。

・歩行者優先のまちづくりに向けは、歩道の拡幅等による安全でゆとりのある歩行空間に向けた「歩いて楽しいまちなかゾーン」の推進や、自転車等駐車場などの自転車利用環境の整備と利用マナー・ルールの確立など、快適な道路空間の構築に取り組む。

・歩いて楽しい暮らしを大切にするライフスタイルへの転換に向けては、利用者の視点に立った公共交通に関する情報の発信や、市民・観光客に公共交通利用への転換を促すモビリティ・マネジメントの推進など、様々な方法でライフスタイルの転換を促すコミュニケーション施策を展開する。

政策名	20	歩くまち
指標名	公共交通機関について残念と評価した割合 (%)	
担当部室	歩くまち京都推進室	連絡先 222-3483
1 指標の説明 観光客へのアンケートで公共交通機関について「残念」と回答した割合		
2 指標の意味 本市の公共交通状況に対する観光客の不満の割合を示す指標		3 算出方法・出典等 出典：京都観光総合調査
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値(%)	平成24年度評価値 12.6	平成32年度目標値 6.3 根拠 現況値(平成23年度)から半減
	前回数値 23年度 12.6	最新数値 24年度 14.7 推移 2.1%増加 単年度目標値 数値 11.9 根拠 平成23年度数値(12.6%)より毎年0.7%減少 達成度 76.5%
	全国順位	中長期目標 数値 6.3% 目標年次 32年度 達成度 -33.3% 根拠 現況値(平成23年度)から半減
5 評価基準 公共交通機関について「残念」と回答した割合について、単年度目標値の達成度が a: 100%以上 b: 80%以上100%未満 c: 60%以上80%未満 d: 40%以上60%未満 e: 40%未満		6 基準説明 単年度目標値の達成度が100%以上の場合を最高のaとし、以下20%刻みで設定した。
		7 評価結果
		23 24 25 - - C

指標名	放置自転車台数 (台)	
担当部室	土木管理部	連絡先 222-3565
1 指標の説明 京都市内の鉄道駅周辺における放置自転車の台数		
2 指標の意味 「歩くまち・京都」の実現に向けた進ちよく状況を示す指標		3 算出方法・出典等 出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の(平成32年度)目標値	平成23年度評価値 4,200	平成32年度目標値 1,400 根拠 平成11年度から平成22年度の減少率を踏まえ、平成21年度数値(4,200台)から約65%減少すると試算。
	前回数値 23年度 2,034	最新数値 24年度 1,536 推移 498台減 単年度目標値 数値 1,950 根拠 平成23年度の実績値(2,034台)を基準として、平成32年度目標値までの年度ごとの減少率(△4%)を乗じた数値 達成度 121.2%
	全国順位	中長期目標 数値 目標年次 達成度 根拠
5 評価基準 単年度目標値に対する達成率 a: 100%以上 b: 90%~100%未満 c: 80%~90%未満 d: 70%~80%未満 e: 70%未満		6 基準説明 放置自転車台数を平成32年度末に1,400台まで減少させるため、最新数値と単年度目標値の差を5段階にて評価基準を設定し、進捗状況を管理する。
		7 評価結果
		23 24 25 a a a